

② 今後の方向

基本方針を考えるワークショップでは、海や多摩川などの自然資源を大切にいかしていくことの評価が高く、既存の大きな公園を充実させること、交流の場をつくっていくことも重要であるという意見が出されました。

【コラム】

第3回ワークショップでは分野ごとの大切にしたい考え方をみんなで共有化するために、事務局の準備した基本方針を旗揚げ方式で評価し、その理由について議論しました。

①身近な（小さな）公園・広場・みどりを充実すること

- ・安全で安心して使える公園に
- ・身近な公園こそ大切。子供を遊ばせたい。
- ・夕飯の支度の時に、おじいちゃんが孫を連れていく大事な所。
- ・市や近所の人が頑張る所。

②既設の大きな公園を充実すること（富士見公園・大師公園）

- ・自然が体験できる場所。子どもたちが走りまわれる。
いろいろな鳥が来る。歩いていける所。
- ・庭園はダメ。自由に入れる所。

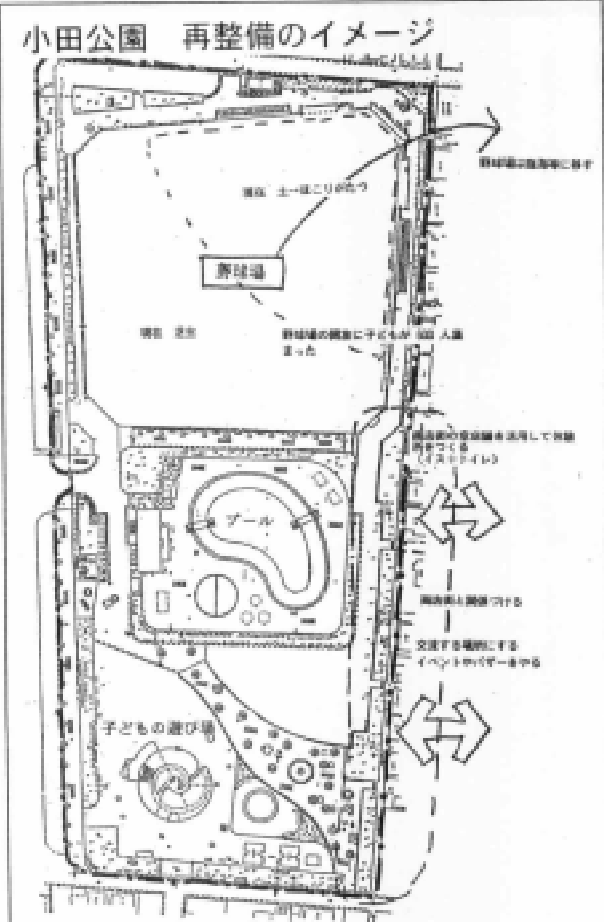
③海と多摩川などの自然資源を大切にし、活かすこと（新設）

- ・海浜公園。海はもともと市民のもの、一企業のものではない。本来の市民のもとへ。
- ・岸壁（コンクリート）ではなく、人が親しめる所に。（海も多摩川も大切にできるようになる。）
- ・子どもたちのためにつくる。
- ・家族で週末に行って楽しむ。
- ・外に（東京、横浜）にあって、川崎にない砂浜。
- ・川崎市のシンボルの海を身近なものに。

④やすらぎやいこいを与える街並みをつくっていくこと

- ・商店街の活性化の観点
- ・道路をなおす
- ・川崎区は人口が減っている。対策を実施するなら“今”
- ・コミュニティーセンターがほしい。

3





土地利用

1 課題の分類

ワークショップで出された土地利用の課題を分類し、図にまとめました。

●課題のまとめ図

川崎都心の活性化と魅力向上

中心市街地活性化の推進

大師線地下化に伴う跡地利用（水辺や緑道に）

浮島地区へ手塚ワールドをつくる

バリアフリー

富士見周辺地区の整備

手塚ワールドが来ることを想定し、市民から要望していく（アクセス、施設、役割）

川崎マリエンは魅力がない。みなと祭りだけ

大師線地下化にともなう駅周辺の開発問題

旧東海道・大師道・川崎宿の史跡を活かす
ストリートファニチャー（ベンチ、ゴミ箱など）の設置、
カラー舗装によるふれあいのある商店街の形成

1人あたりのスポーツ施設の拡充

近隣の商店街の活性化

商店街は地域の中心・人が集まる商店街づくり
多様性と拠点性の強化

少しづつ客足が減って転業を考えている。
客はみんな大規模のスーパーなどに行ってしまう

行政の仕事と商店の仕事を明確化する
行政の事業効果をわかりやすく説明してほしい

商店街、街の顔の位置づけを重視する

商店街のあり方が変わってきているお客を待っている
だけではダメだ。行政もそれらを考えてほしい

昔の商店にはお客とのコミュニケーションがあった

スーパーがよい。商店街は店を回るのが不便

買い物しやすい商店街づくり
駐車場、駐輪場の設置

商店街と地域の個性を生かした魅力づくり
東海道の史跡の活用、舗装材料の高質化

商店街活性化事業の推進

目的別に店を選んでいる
（たりない物を買って足すのが個人店舗）

空店舗利用

店主の教育をする

●用途混在地区の改善

商業地区と住宅地区をむすぶ横の
移動がしにくい

凡例

- 大きくくり
- 区づくり白書の内容
- ワークショップでの意見
- 2010 新中期計画

●は内容を深めていきたい、検討したい項目

大規模工業地の土地利用転換の誘導

昭和電線電纜(株)の跡地利用

臨海部第2層の活性化

東京電力川崎火力発電所建て替えの一部市民開放

臨海工業地帯の空洞化

その他

大気汚染日本一の地域（産業道路沿い）

都市拠点の整備

● 川崎駅北口地区の整備

①川崎駅北口地区第2区再開発事業

②川崎駅北口地区第3西街区再開発事業

JR 京急川崎駅周辺の環境整備

● 自転車通勤道路整備と市内の車制限

ビジョンと各計画を評価する方法が必要（あるべき姿との比較）

暮らしに役立つ再開発

住民の暮らしに役立ち商店街の振興につながる環境づくり
多摩川リバーサイド地区の再開発
企業のリストラ遊休地などへの公営・公共住宅の整備

門前町の魅力向上

ニュー下町、大師商店街の地域に根ざした商店街づくり

川崎には下町のよさがある。海も川もある。やりようによってはステキな町ができるのでは。工業地域のイメージからハイテクの町へ変える。どこの世界にも負けない町をつくる。

住宅系市街地の整備

住宅密集地域の再整備を進める
小田地区は、区画整理事業等の検討を進め住宅密集の改善を図る

港湾物流機能の高度化

● 臨海都市拠点の整備

● 浮島町地先地区の整備

工場跡地問題 工場立地法

港湾地区の再開発計画と横を結ぶ道路整備

塩浜地区の産廃と不法投棄問題

公園、寺で若者を呼んで活性化してサイバーパークのイメージを実現したい

川崎は日本初の発明が多い。ハイテクのイメージを強くしたい

浮島第Ⅱ期埋め立て地は市民に開放された公園・住宅地とする

海辺に砂浜をつくって市外の人を呼べるようにしたい

放置車両やゴミで一杯のちどり公園駐車場

終末処理場の集中（産業道路東側）

臨海部の再開発可能な区域を明示すること



【コラム】

ワークショップや中間報告会での意見を紹介します。

- ・川崎市の玄関口であるＪＲ、京急両川崎駅周辺の環境整備を検討する必要がある。
- ①平面部分を整備し、回遊性の検討。 ②ホームレス問題の検討。
- ・空き店舗利用については将来像としてはどうか。
- ・川崎大師は、初詣で昔は１位だったが、今は取り巻く環境が悪い。

【臨海部開発などについて】

- ・特に臨海部の再開発可能な区域を明示すること
- ・浮島第Ⅱ期埋立地は市民に開放された公園・住宅地（中高層）とすべし。（先の土地用途見直し時は白紙地域であったはずの物がいつの間にか流通業務地となっている。）
- ・市民にとっては、臨海部は一つのイメージ。臨海部開発について、もっと議論をやっていくべき時期である。
- ・手塚ワールドが出来ることを想定し、市民から要望していく。（アクセス、施設、役割）
- ・川崎マリエンも魅力ない。みなと祭りだけ。
- ・臨海部（第２層）の活性化。
- ・東京電力川崎火力発電所建て替えの一部市民開放。

② 今後の方向

基本方針を考えるワークショップでは、「安心して暮らせる住みやすい」住環境づくりの評価が高く、魅力や活気ある商業地や活力ある工業地(産業地)づくりも重要であるという意見が出されました。

[コラム]

第3回ワークショップでは分野ごとの大切にしたい考え方をみんなで共有化するために、事務局の準備した基本方針を旗揚げ方式で評価し、その理由について議論しました。

①活気がある商業地づくり

- ・工業地として活気の少なくなりつつある川崎。住民が快適に暮らし、便利で、住みたくなる町にする為にも商業にがんばってもらいたい。(他の町に買い物等に出掛けることを減らす為にも。)

②住みやすい住環境づくり

- ・公害の町川崎というイメージから人間性あふれるイメージに変えたい。人間が原点であり、他は従である。
- ・安心して、毎日暮らせる場所を望むことが大切です。
- ・地域によってスラム化しているアパート群があるが、どうなってゆくのか。
- ・防災を含んでコンクリート集合住宅を行政が建てるべき。
- ・区画が出来ていれば、道路や交通システムがきちんと出来るはず。

③活力ある工業地(産業地)づくり

- ・活力ある町づくり
- ・川崎区は産業(工業)に依存して形成されてきた。
- ・産業活性に付いて商業活性化が有る。
- ・工業地がなくなるとすることは、財源がなくなることである。それでも公害がもたらされるという事は考えなくてはならない。